

長い11世紀のイングランド：北西ヨーロッパ海域におけるその構造と位置c. 960～1135年

鶴島，博和

<https://hdl.handle.net/2324/6787694>

出版情報：Kyushu University, 2022, 博士（文学），論文博士

バージョン：

権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏名	鶴島 博和			
論文名	長い 11 世紀のイングランド：北西ヨーロッパ海域におけるその構造と位置 c. 960～1135 年			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	岡崎 敦
	副査	九州大学	教授	清水 和裕
	副査	九州大学	教授	森平 雅彦
	副査	東北大学	教授	有光 秀行

論文審査の結果の要旨

本論文は、ラテン的キリスト教世界としてのヨーロッパが確立したとされる 10～12 世紀に、北西ヨーロッパ海域を舞台に「半周辺」として形成された、政治体としてのイングランドの「構造」を論じたものである。この際、一方では、国家論、貴族社会論等のいわゆる国制史的枠組み、他方では、地域ジェントリの生業である塩業、漁業を、局地、地域際、広域にわたるネットワークの中に位置づける社会経済史的観点を設定しつつも、これら多様な論点を統合しながら、12 世紀中葉以降に成立するイングランド国家＝政治社会の形成過程が総体的に論じられている。

第一部「権威と権力」では、長い 11 世紀にキリスト教理念によって成立した統合王権のイデオロギー（第一章「権威」）とその権力基盤（第二章「国王統治—「中央」の成立—）が論じられる。この時期に、部族制を止揚して「イングランド人」という後にネイションに繋がる民衆団とそれを束ねる国王が誕生した。第二部「社会とアソシエーション」の対象は、宮廷（中央）と地域の関係である。第三章「「よき人」の共同体」では、国王統治の基盤である州、州共同体を担うセイン＝ジェントリ、彼らの社会的結合が、第四章「坩堝の地域の再生」では、ノルマン征服の結果新たに入植した貴族、騎士たちのイングランド人への同化過程が、所領保有関係やコミュニケーション、ネットワークの形成を通じて論じられる。第三部「交通とフローネットワーク」では、長い 11 世紀のイングランドに構造的特殊性を与えた「地域のよき人々」＝ジェントリたちの生業の一つである塩業（第五章「市場、船、そして塩」）と漁業（第六章「漁業と海民の社会」）、その産業化とそれに伴う交通体系を背景とするフローネットワーク、さらに貨幣システムと通貨（第七章「貨幣と流通」）などの問題が、緊密に関連されつつ論じられる。終章「森が動くとき」では、「征服前からの権利が、征服王によって承認された」とするケントの伝承を手がかりとして、在地で紡がれた歴史認識を論じながら、王国共同体と州共同体の関係の連続と変質に触れて、本論文が対象とした「構造」の時代的位置づけがなされている。

本論文で取り上げられる多様な論点のなかでも、特に第一部、第二部の主題である国家論・王権論や貴族社会論等の問題は、西洋中世史学界が伝統的に取り組んできたもので、本論文の内容は、関係の研究動向の広範な検討に基づく、独自の実証研究の成果と評価できる。他方、第三部は、漁業や塩業の産業化と商業ネットワーク等の諸問題を詳細に検証するとともに、第一部、第二部で展開された権力や政治社会の諸問題と関係づけて論じられており、独創性がとりわけ高いと評価される。最後に、本論文は、全体として、12 世紀以前の権力と社会のあり方を、歴史学共通の諸概念や理論を用いて論じており、現在、世界の歴史学界共通に大きな注目を集めている比較史的グローバル・ヒストリーの試みとして、歴史学界全体への大きな貢献となっている。

以上、本論文は、一方で独自の問題意識と方法論にもとづく、独創的な総合的国家＝社会研究であり、論文提出者の学問的総決算であるとともに、西洋中世史研究の歴史においても、学界の現在を象徴する里程標的研究とみなすことができる。

以上から、本調査委員会は、本論文の提出者が博士（文学）の学位を授与されるに十分であると認める。